

神奈川県地域資料 保全ネットワーク

事務局 〒240-8501

神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79-2

横浜国立大学教育学部 多和田雅保研究室

URL <https://kanagawa-shiryounet.hatenablog.com/>

E-mail kanagawa_shiryounet@yahoo.co.jp

電話 Fax 045(339)3434 設立年月日 2011年7月30日

2020年の活動について—地域資料をめぐるさまざまな担い手と共に—

2020年の神奈川県資料ネットは、新型コロナウイルス感染症の影響で制限を受けつつも、文化財関係者や県内で活動する災害ボランティア、中間支援組織等にお力添えをいただいで活動しています。文化財系と災害ボランティア系のネットワークを両輪とした活動をする中で、「オール神奈川で資料をまもる」ことが日常になればと願っています。

2019年に発生した台風への対応などの経験をもとにしながら、初期対応の方法を考えつつ、神奈川県内における資料の所在情報の把握に努めています。

1 川崎市市民ミュージアム収蔵品レスキュー活動への参加

2019年台風19号で被災した収蔵品に対するレスキュー

- ・第6回全国史料ネット研究交流集会(2020年2月)の折に、国立文化財機構の方とお話したことが参加のきっかけ。
- ・神奈川県内では、令和元年東日本台風(19号)後、川崎市市民ミュージアムのみが文化財レスキューの対象になる。
→初動は民間所在資料の保全のために動くという方針は大切につつ、県内の被災資料の復元のお手伝いのため参加。
- ・2020年10月に川崎市と協定書を取り交わし、川崎市市民ミュージアムの支援団体の1つとして、初期乾燥作業より参加(10月に3人、11月・12月に各2人(延べ人数))。
- ・参加に際しては、国立文化財機構と神奈川県博物館協会からお力添えいただく→神奈川県文化遺産防災連絡会議の意義。

2 さくら会議への参加

資料保全が災害ボランティアの一要素として日常化することを目指して

・さくら会議…神奈川県内の災害ボランティアが効果的な支援を探る常設的な意見交換・情報共有の場づくりをめざして2017年に有志により設立。2019年に発生した2つの台風(15号・19号)後は、災害ボランティアの情報共有会議として運用されていたため、2019年9月より参加。2019年9月の会議参加は金沢工業団地での水損資料の初期乾燥作業のきっかけに。2020年度はオンラインで開催。

3 かながわコミュニティカレッジ でのワークショップ

災害時に水損した紙資料の応急処置ワークショップの実施

- ・さくら会議への参加をきっかけとして、「災害救援・減災・防災」の分野で講座企画提案を行い、採択された。
- ・県立の施設(主管課は政策局NPO協働推進課)で実施。
- ・擬似被災文書の作成は運営委員で方法を検討して行った。
- ・擬似被災のさせ方についてのお知恵や被災地での活動等の画像の利用許諾を全国の資料保全関係者等からいただく。

ワークショップのチラシ



水損資料保全・復元活動と関連機関との連携の重要性
災害ボランティアと連携して行った活動の紹介や配慮すべき個人情報、関連機関との調整についてお話ししました。

水損資料の簡易な乾燥方法を学ぶ
常総市行政文書保全指導員の林貴史氏によるワークショップでは、参加者が実際に水損したサンプルの復元を行いました。



4 広域連携かながわ図上訓練実行委員会への参加

第1回の訓練の分科会のテーマの1つは「資料保全」に!

- ・さくら会議をきっかけとして、2019年11月より実行委員会に参加。
- ・2日間のプログラムを決めていく中で、災害ボランティアに活動を知っていただくことで、方法がわからずやむなく廃棄される資料が減ることを目指して「資料保全」の分科会を提案。了承される。
- ・2020年4月に対面で開催予定が新型コロナウイルス感染症の影響で延期。
- ・2021年1月7日と2月11日(分科会開催日)にオンラインにて開催予定。

図上訓練のチラシ



5 災害ボランティアとのかかわり

資料保全も担う床下の泥出し・消毒ボランティアに出会う!

- ・2020年は、多摩川災害支援チーム(チームたま)とのかかわりができた。
→被災したアルバムをお預かりする→横浜国大の入構規制で冷凍中(冷凍庫のことをきっかけに、教育学部内の多分野の教員と資料保全にかんする情報共有が可能に)。
→「水害に遭った写真の洗浄会」への参加→新たな資料保全の担い手・ネットワークとの出会い。